

2023年度 社会学プロジェクト演習 ゼミ概要

● 天田ゼミ (天田 城介)

担当教員：天田城介

曜日・時限：水曜日・5時限 (17:00~18:40)

研究テーマ：自由

ゼミの特色：各自の関心・テーマに応じて研究を進め、ゼミ論文や卒業論文にまとめると同時に、夏期と冬期に実施するインテンシヴなフィールドワークを踏まえて社会的マイノリティの視点から社会を捉え直すプロジェクトを進めています。

なお、2023年度のゼミ全体のテーマは「戦後日本社会における生存の現代史」としました。2016年度は「ドヤ街」と呼ばれた釜ヶ崎や在日コリアンの集住地区である生野などを、2017年度は福岡県における生活困窮者支援や炭塵爆発被害者家族（女性）たちの運動を、2018年度では沖縄において女性や障害者による反戦・平和運動を、2019年度は釜ヶ崎や生野におけるNPO法人の実践を、2020年度は京都の被差別部落のまちづくりを行う市民団体と在日ヘイト・スピーチと闘う市民団体・研究者などの実践を、2021年度は首都圏で生活困窮者支援を行っているNPO法人などの実践を調査してきました。今年度（2022年度）は、厳しい環境に置かれながらも当事者と支援者たちが声をあげてきた釜ヶ崎や在日コリアンの集住地区である生野などを調査し、当事者の言葉に耳を傾けました。私のゼミでは、そのような社会的マイノリティの視点から戦後史を読み解きます。また、上記以外では問題関心の近いメンバーでグループを組み、各グループでテーマを決め、フィールドワークに臨んでいます。このように積極的に社会の声に耳を傾け、ふだんは見えないものを丁寧に見るゼミにしています。

天田ゼミでは、フィールドワークなど調査をするゼミ生には現場からこそ徹底的に学んでほしいと思っていますし、文献や資料をもとに分析したいと思うゼミ生には徹底的にそれらを渉猟してほしいと思っています。いずれにしても、最初から「〇〇はこういうことだろう」と決めつけず、現実を踏まえた上で、大胆で自由な想像力をもって思考してほしいと思っています。多様なゼミ生による大胆で自由な想像力を大事に、楽しいゼミにしていければと考えています。このように一人ひとりが主体的に作り上げていくゼミです。

※不明な点があれば、天田 (josuke.amada@nifty.com) に遠慮なく問い合わせください。

● 首藤ゼミ (首藤 明和)

(1) テーマ：社会変動論、グローバリゼーション論、家族・地域・コミュニティ・エスニシティ、若者・サブカルチャー研究、宗教・信仰、意味論、社会システム理論など。

(2) 卒論テーマ：自由です。研究方法は、フィールドワーク、インタビュー、ドキュメント分析、文献研究などとなります。

(3) 運営方法：①各自設定した卒業研究のテーマに取り組みます。また研究テーマに応じてグループ分けをし、継続してお互いが切磋琢磨できる研究環境を作ります。②前期は、各自の研究テーマに沿った基本文献の講読を行います。夏休みのフィールドワークに向けた準備も行います。③後期は、夏休みのフィールドワークの成果を発表します。また、卒論の基本構想を固めます。④3年生は卒論中間報告として「ゼミ論」(4000字程度)を執筆します。

(4) 自主参加プロジェクト：任意参加型の調査プロジェクトを計画しています。①中国雲南ムスリム研究、②長崎平戸・中国福建・台湾台南を中心とした媽祖(航海女神)研究、③大阪 JR 環状線沿線(大正・芦原橋・新今宮・天王寺・鶴橋)などです。これら自主参加プロジェクトを通じてフィールドワークを行い、卒業論文を作成することもできるよう準備しています(現地情勢により調査を実施しない年もあります)。

(5) メッセージ：考え続けることを楽しみたいと思います。ちょっとほかのひととは違って自分は変わっているかもしれないと思っているひとには合っているかもしれません。やりたいことがあるのだけれども、どうしたらよいのか、というひとには、そうしたご自身のテーマを卒論作成でも活かせるよう、時間をかけてご相談していきます。

● 新原ゼミ (新原 道信)

みなさん、こんにちは。わたし(新原道信)は現在、文学部長をしています。そのため、授業科目担当を「休止」せざるを得ず、2年生のみなさんにお会いする機会が減り、とても残念に思っています(×)。当面の課題におわれて走り回っている状態ですが、ゼミ生のみなさんは、自分たちで考え、行動し、勇気をもってたすけあってやってくれています。新原ゼミの概要は、下記の【参考資料】で紹介していますので、ここでは、その背景となる話をさせてください。

学者としてのわたしは、地域や都市の社会学、人間と社会のうごきをとらえるフィールドワークが専門領域となっていますが、ゼミ生の研究テーマは様々です。地域や都市、コミュニティ、文化・メディア、ジェンダー、家族、子ども、教育、観光、生きづらさ、病、ケア、ボランティア、ゲーム、ドラマ、レトロ、鉄道、流行、地ビールなど、自分が考えたいことを追求し卒論・ゼミ論に取り組んでいます。ゼミでは、〈地域に寄りそい、ひとにこころを寄せるフィールドワーク〉を学んでいます。フィールドワークは、土地や人だけでなく、本やインターネット、各種のデータ、ゲーム、ドラマ、SNS から身近な生活や家族・友人関係まであらゆることをフィールドとしています。そもそも地域のなかではあらゆることが起きますし、何をテーマとしても、リアルに地域で家族や友人と暮らすこととつながってきます。そして理想は、誰もが「ただ存在するという理由のみによって静かに尊重されるような場所」(メルッチ)を創ることだと思います。

それぞれ、自分の“コーズ(考えるべきこと、探求したいこと)”に対する正直な気持ちを大切に、なんとか「自分のテーマ」を社会学の「土俵」にのせようと奮闘してくれています。先輩たちが、どんなテーマに取り組んできたかは、新原道信編『人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門』(ミネルヴァ書房、2022年)の「旅/フィールドワークする学生たち」「見知らぬわが街/家族/わたしの“社会的探求”」以下の文章を読んでいただけましたら幸いです(☆『人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門』 - Google ドライブ)。

新原ゼミは、社会学専攻の学部ゼミ、大学院ゼミに加えて、FLP 地域公共と国際協力の4つのゼミによって構成され、ゼミ・学部の枠をこえた交流・協力をしています。夏休みには、秩父でゼミ合同の合宿を行いました。この合宿もそうですが、ゼミの活動は、すべてそれをやろう、やりたいという有志の提案ですすめてくれています。ゼミ生有志による活動である立川プロ

プロジェクトでは、大学の外に出て行き、立川・砂川地区の団地や子ども会のイベントの企画・運営にも参加させてもらったり、地域の人たちを大学に招待して大学体験をしてもらったりして、ディープなフィールドワークを体験しています。また論文の「生みの苦しみ」とともに楽しむ(!?)という観点から、自分の興味関心を院生や他のゼミ生に気軽に相談できる合同プロジェクトなども自主運営しています。サークルやインターンシップ、留学や教職、公務員試験など忙しくしている人たちが多いゼミですが、それぞれのコンディション、テンポとリズムでゼミにかかわり、出来ないときは無理しないけれど出来るときには目一杯やる(!!)というスタイルで、「持続可能性」と「相乗効果」を大切にしています!?

自ら考えうごき、声をかけあい励ましあい、「驚き遊び探求する”気持ちを大切に、卒業までの苦楽を「ともに」して、〈学問という遊び〉に、真剣に取り組んだ学生たちは、「卒論執筆は、お祭りみたいでした～」と言って来ています(^_^)♪ こうした活動を通じて「(社会で)生きる力」を身につけたゼミ生は各所に旅立っています(◇ゼミ紹介用の部屋 - Google ドライブ)。 “共感・共苦・共歓”、なんとかひとのSOSに応えようとするという「生き方」は、卒業後の力となるようで、困ったときにいろいろなひとが助けてくれたと報告してくれます。だからわたしの娘にも、「ゼミのひとたちみたいにちゃんと生きて、ひとのよさと運のよさを磨くんだ(!!)」と伝えています。

これから厳しい時代を生きることになるみなさんは、様々なプレッシャー、不安を感じ、そのなかでもなんとか希望や願望を持ちたいと思っているのでは想像しています。わたしは子どもの頃から、優秀な親族や同級生・友人に囲まれ、「何をやってもだめな自分は生きている価値などない(><)のでは」という思いに苛まれていました。しかしその一方で、アンパンマンのマーチにあるように「なんのために生まれて なにをして生きるのか こたえられないなんて そんなのはいやだ!」という気持ちもありました。“コーズ(生きる理由)”という言葉を書かれていた先生のもとで学びたいと思い、大学・学部ではなく先生を選んで、やっと受験勉強を始めました。勉強は本当に苦手でしたが、どうにか大学に入って、その先生から学び、生きる意味を探せました。かなり変(!?)だった私に「君はまともだよ」と言ってくれた先生の言葉で、これまで生かされてきました。だから学生のみなさんには、「大丈夫。ちゃんと生きていけます!」と言いたいです。

大学ではぜひ、一生の先生、一生の友に出会ってほしい、そして何よりも自分の人生を歩いてほしいと思います。自分が、何を考えどう生きればいいのかと悩む時間が必要なタイプだと思ったら、新原ゼミをおすすめします!! ゼミ生一同お待ちしております。

【参考資料】 興味をもってくれた方は、niihara@tamacc.chuo-u.ac.jpまでご連絡ください。

ゼミの概要については、下記のURLやドライブをぜひ検索してみてください!!

☆新原道信と新原ゼミの紹介ページ☆

<https://sociology.r.chuo-u.ac.jp/member/detail/76>

☆ゼミ紹介用の部屋☆

<https://drive.google.com/drive/u/1/folders/1aGeNVyRyhwIpSuxn7kImoqsrt-JwVEUY>

☆閲覧資料の部屋☆

<https://drive.google.com/drive/u/1/folders/1QxSaQC24XoJAseSSryqANV14zwB5Xat>

☆『人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門』原稿☆

https://drive.google.com/drive/u/1/folders/1IgGKZqCHBcmBK_CNlwTw8IKh6MIV5MEW

☆『人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門』の部屋☆

https://drive.google.com/drive/u/1/folders/1e6Cwqoambz8kQifrSALbE7igP_CRoTN9

● 野宮ゼミ (野宮 大志郎)

I. ゼミの特徴

- ・ グローバルな社会現象：先進国と途上国とでの貧困、子どもの問題、移民労働者、難民や地域紛争、地球環境、ユニセフなど国際機関の活動など、国際社会現象を扱います。
- ・ 海外で本当の社会調査！！：2020、2021、年度はコロナで無理でしたが、それまでは、タイ(2016)、フィリピン(2017)、そしてベトナム(2018)そして 2019 はカンボジアでした。2022 年度は、文化や社会生活様式の異なる沖縄で1週間を超える集中調査を行いました。2023 年は、海外調査と国内調査の二つを視野に入れて検討したいと考えています。
- ・ プロジェクト型の授業：各自の興味関心をもとにグループを作り、研究対象の選定から調査まで、全てを行います。
- ・ 多様な学生の参加：他学部や他学科など、異なるバックグラウンドを持つ学生がゼミに参加します。
- ・ あらゆる研究技能の向上：「読む」、「書く」、「議論する」、「プレゼンする」の4技能すべて学習します。

II. ゼミの運営方針

(1) グループ活動：皆で創る

- ・ 主体性・自主性：
 - 誰かが創るのではない。自分がコミットして創る。
- ・ 協力する：
 - 自分ができる仕事をする。
 - 全体を皆で作る、その中で自分ができる仕事をする。
- ・ リーダーを作らない。
 - ゼミ長＝なし。全員で問題を解決する。

(2) 期待する学生の姿：こんな個人になってもらいたい！

- ・ 各人が「千差万別」であることを理解する
 - それぞれ、異なる力を持つ=>ある場面では弱い。しかし別の場面では強い。それぞれが異なる場面で活躍する。
- ・ 周囲の人を公平に見る
 - 誰とでも、対等に話ができて、対等に議論できるひとになる。
 - 隣の人を尊敬できる人になる。偉い人には「えらい!」、すごい人には「すごい!」、頑張る人には「がんばるね!」と言える人になる。
- ・ 自分で縮こまらない
 - 最初から、他の人の後ろに立つな。皆同じ。皆が一からのスタート。
- ・ 人を助ける：
 - グループ活動などで、困っている隣の人をたすける自分になる。
- ・ つきつめる：
 - みんなと徹底的に議論して、問題をどんどん追っていく。

III. どんな人にピッチのゼミか

- ・ みんなと沢山意見交換して、一緒になって何かを創りたい人。

- ・ 本当に、自分の好きな事柄について調査をしたい人。
- ・ 批判的に考える、自分の考えを提示するためのトレーニングをしたい人。

VI. どんな人には合わないゼミか

- ・ 日本社会全体の問題や海外で起こっている事柄など、グローバルな視点、国際的な視点に興味のない人。
- ・ 消極的参加をしたい人。教室の隅に隠れていたい人。ずーっと黙っていたい人。
- ・ ゼミ調査合宿など、みんなでの活動が嫌いな人。
- ・ 90分で授業を終えたい人。
- ・ オンラインで授業を済ませたい人。

以上

● 矢野ゼミ (矢野 善郎)

社会の様々な側面について学生が活発に討論することが伝統です！具体的には、毎週①各自の卒業論文の構想について報告し、それに他のメンバーが理論面などでサポートし、議論します。論文テーマには一切縛りはありません。社会問題・運動・政策・制度・労働・歴史・変動・コミュニティ・組織系・相互行為・儀礼・異文化理解…、理論からサブカルまで毎週バラエティに富んでいます。また②合宿・公開ディベートでは、社会学的な討論の経験を積みます。

その他の特徴：出席厳守・飲食可・差入歓迎。合宿参加必須。たいがい合宿を行ってきました（コロナを除き）。昨年は大学でやりました。2014-2019年は海外（韓国・台湾・タイ・インドネシアの大学生と議論）。2023年度については、是非ゼミで議論して決めたいです（議論して決めるのが伝統）

重要な注意：卒論を書くことを前提にしたゼミです。（3年の時には卒論の中間発表となるゼミ論を書きます）

矢野ゼミ恒例 公開ディベート 2023年1月16日（月） 10:50～13:20

教室+オンライン 計2試合（※途中入退室可）

今年のテーマは、日本社会が「特別支援教育」をどう展開すべきか。班に分かれ、政策提案しディベートします。観客からの質問時間もあります。是非、議論に参加しゼミ生を鍛えてやって下さい！教室・リンクは後日 社会学HPなどで

● 山田ゼミ (山田 昌弘)

1. 今年のテーマは、「人生 100 年時代の人生とは」にします。

最近、人生 100 年時代という言葉よく耳にするようになりまし。因みに、1960 年の日本の平均寿命は男性 65.32 歳、女性 70.19 歳。それが、2022 年には 81.47 歳、87.57 歳。男女とも 15 年以上延びている。みなさん、つまり、今の若者の半数は男性 95 歳、女性 100 歳まで生存するとの予測もされています。

しかし、これは、単に寿命が延びて老後の期間が長くなったことを意味しません。60 年前の若者だった人は、ほとんどの人が結婚して離婚せず、夫は主に仕事、妻は主に家事で老後を迎えることができました。しかし、今の若者は、25%の人が結婚せず、25%の人が一度は離婚します。結婚して離婚しないで 65 歳を迎える若者は半分に過ぎないと予測されています。仕事も今後は、男性は一生同じ企業で勤められる男性、結婚してパート程度で豊かに生活を送れる女性の割合はどんどん少なくなっていくます。

この人生 100 年時代のライフコースはどのように変わらざるを得ないのか、みなさんと一緒に考えていきたいと思ひます。

2. ゼミの進行

スコット&グラットン『ライフシフト、100 年時代の人生戦略』(東洋経済新報社)を輪読します。そこで、今後の家族や仕事のありかたはどのように変化するのかをみていきます。続いて、人生 100 年時代を予測するような書籍を読みます。

夏休みに合宿研修(新型コロナが治まり可能であれば)を行います。夏休み前には、各人の興味関心にしたがった課題(本または論文のレポート+フィールドワーク・調査など)を出します。

後期は、本の講読を行い、後半部には三年生に夏休みの実際のフィールドワークの成果を順次各自で発表し、卒業論文執筆に備えます。

3. 希望

研究テーマは、「家族」「恋愛」「ジェンダー」「若者問題」に関係しているものが望ましいです。特に、多様化している婚活(アプリの出会い、中高年婚活)、バーチャル家族(ペットを家族と見なす、アイドルに恋している、レンタル家族)、新しい家族の試み(専業主夫、同性愛結婚、シェアハウス、グループホームなど)などに興味を持っている人であれば、うれしいです。

あと、私は高齢者となりましたので、年寄りをいたわっていただける学生を望みます。

● 栗原ゼミ (栗原 美紀)

〈テーマ〉2023年度のゼミでは、「現代社会における様々な移動」を全体のテーマに設定して学習していきます。グローバル化を背景に、今日では人の移動が活発化しています。一言に移動といっても、観光に代表されるような自発的な移動から、難民などの非自発的移動まで幅広く、また、人の移動に伴ってモノや文化、価値観も多方向に伝播しています。多様な移動が交錯する現代社会について、それぞれに関心のある具体的な現象・問題に焦点を当てながら研究（ゼミ論・卒論）を行います。

〈進め方〉グループワークを中心に、輪読をもとにしたディスカッションやフィールドワークを実施する予定です。各自に固有のものを見方を活かしながらも他者の見方に学びつつ、現代社会を捉える方法を模索してほしいと考えています。

〈補足〉私自身はこれまで観光やヨガを事例に、「日常」から一時離れることで人々の価値観や考え方が変化していくプロセスについて研究してきました。その中で大切にしてきたのは、「自分も一緒にやってみる」です。頭だけでなく身体を動かし、五感を活用しながら現実を理解したい方、大歓迎です！

ご不明な点や質問があればいつでも mkurihara751@g.chuo-u.ac.jp までお気軽にご連絡ください。

● 小泉ゼミ (小泉 恭子)

文化社会学が専門の小泉ゼミでは、変化する社会に対応できる柔軟性と洞察力の鍛錬を目指して、多角的な学びに基礎を置いています。文化と社会の関係をアイデンティティやコミュニケーションの点から考え、知識を実践に結びつける力も培うことで、ゼミ活動を通じて視野と可能性の拡張を狙います。

卒業研究は個人、ゼミ内プロジェクトは共同で進めます。プロジェクトのテーマは話し合いで決め、グループワークも準備を行ってから始めます。2023年度は小泉ゼミの初年度ですので、4、5月は教員がテーマを出して、全体でブレインストーミングを行っていただこうと考えています。テーマはメディア文化関連で、「倍速視聴」「クロス・ジェンダード・パフォーマンス」「推し活」などを予定していますが、ゼミ生の希望があれば、そちらのテーマを優先させますので、アイデア大歓迎です。

小泉ゼミのモットーは、先輩たちが考えてくれた「好きを究める」。既にこだわりのある方も、これからこだわりを見つけない方もぜひ、サブカルチャーの知識を社会学の学びと結びつけてみませんか。居心地の良いゼミとなるように、明るい雰囲気を集めたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

● 浜本ゼミ (浜本 篤史)

研究領域：開発および環境社会学。特にインフラ計画にともなう環境紛争や地域社会・住民への影響です。

事例を通じて地域のリアリティに迫り、社会的に検討します。

研究アプローチ：環境社会学が重視する「被害者・居住者・生活者の視点」をこのゼミでも取り入れ、現場主義を基本とします。

活動スケジュール：良質で深みのある卒論を書くためには、早い段階から事例対象と向き合いたいです。よって3年次の夏休み前までに、①自分自身で事例対象を設定する、②ゼミ共通の調査研究に取り組む、以上どちらかに決め、夏休み中に現場に入りはじめます。学生は年間を通じて主体的に活動し（あちこち出かけ）、週1回のゼミ時間は各自の蓄積や課題などを持ち寄り、仲間と共有・議論する「波止場」となるのが理想です。

ゼミ共通の調査研究：希望者がいるときに設定します。仮の候補は、ダム開発（木曾川、相模川、荒川など）、道路建設（圏央道、東京外環など）、リニア開業（静岡工区の大井川問題、橋本エリア再開発）です。

特典：「環境社会学ゼミ首都圏インカレ」という報告会に参加できます。

メッセージ：卒業後、社会学徒としての活躍を期待しているので、開発・環境問題の専門性を高める以上に、ゼミを通じて社会学のセンスを磨き、自らを鍛えてほしいです。

● 堀ゼミ (堀 有喜衣) (ほり ゆきえ)

1. ゼミの主なテーマと方針

教育・労働・若者の意識に関するテーマについて関心がある方を歓迎します。

例えば、新規学卒一括採用やキャリア教育、インターンシップ、就職活動に関する疑問や、大学や大学教育の意義、若者の職業意識の変化などは、学生の皆さんにとって身近なテーマだと思います。テーマはほんの一例ですが、教育・労働・若者の意識に関する内容であれば、ゼミの仲間と問題意識が共有しやすいのではないかと思います。

また今は何でもインターネットで検索してしまいがちですが、「自分で調べて、実証的なデータを作成する」ことを大事にしたいと思います。自分で調査することはもちろん、自分自身で文献を読むこと、デジタル化されていないデータを収集することも重要です。自分で作りだしたデータによって、自分の事前の仮説や予想が裏切られることを楽しんでください。

2. ゼミの運営について

最初に全員で『創造の方法学』という新書を輪読し、論文についての考え方の基礎を養います。続いて各人が関心のあるテーマの必読文献（主に論文）についての要約を順番に発表し、読むべき文献リストを積み上げます。後期は卒論構想について発表しあって議論します。

3. その他

担当教員の本務先は、公的な研究所（労働政策研究・研修機構）で、普段は学校から職業への移行や若年者雇用について研究しています。中央大学の皆さんと一緒に勉強できることを楽しみにしています。本ゼミは2023年度に新しく開講されるゼミですので、みんなで作っていきましょう。